

中国石炭企業のオーストラリア進出

中国におけるリオ・ティント社員拘束を巡って、まだ観測や解釈が飛び交っていた8月中旬、中国の兗州煤業股份有限公司（Yanzhou Coal Mining Company Limited：以下、Y社）によるオーストラリアのFelix Resources（以下、F社）買収に関する交渉が伝えられた。提案買収額は約30億ドルであり、買収が成立するためには、株主に加え、オーストラリア、中国両政府の承認が必要であるが、承認されれば、中国企業による最大のオーストラリア企業買収になる。

Y社は中国の石炭会社の中で、市場価値評価で1、2位を占める China Shenhua Energy Co. Ltd.（中国神華能源股份有限公司）、China Coal Energy Co.（中国中煤能源有限公司）に次ぐ会社であるが、2008年における石炭生産量は3,608万トンと、前者の1億8,570万トン、後者の1億40万トンに大きく及ばない。同社はここ数年、オーストラリアへの進出を目指していた。その石炭生産量は2003年を頂上に低下傾向を示しており、しかも、国内における拡大の機会は限られているので、外国で生産を増やす必要があった。Y社はすでにオーストラリアのハンター・バレーに炭鉱を持っている（2004年に取得。2008年の生産量は原料炭190万トン）が、昨年も、石炭埋蔵量を引き上げる計画があると述べていた。

一方、F社はこのところ成長著しい会社であり、例えば昨年の純益は前年に比して4倍に増大した。F社はサウス・ウェールズ州とクイーンズランド州で炭鉱を持ち、日本、韓国、ヨーロッパに石炭を輸出している。F社のこれまでの生産では原料炭の比重が大きいとは言え、燃料炭（一般炭）を生産するMoolarben炭鉱（F社が80%の権益を持つ）を開発中であり、それが2010年半ばに生産を始めれば、F社の燃料炭生産量は75%増大する見込みである。これはY社の生産の中心である燃料炭の拡大に寄与するはずである。

ところで、中国では最近、石炭輸入が急増しており、2009年上半期には前年同期比2倍以上に達している。石炭企業の外国進出の背景に、そのような状況があることは否定しえないところであろう。しかし、中国の石炭資源は石油資源に比して非常に豊富である。2009年上半期における原油の生産量は9,349万トン、輸入量は9,077万トンであるのに対して、石炭の生産量は13億5,600万トンと、輸入量（4,830万トン）より二桁大きい。また、上記のChina Shenhuaは各1億トンの生産能力を持つ2つの炭田の開発を5年以内に稼働開始の予定で進めている。

なお、上述の買収については、株主および規制当局の承認を得るのは難しいであろう、という観測があること、さらに、F社炭鉱の近くで操業するスイスのXstrata社によるカウンター・ビッドの可能性が指摘されていることを付け加えておく。

（エイジウム研究所 上席研究員 木村 徹）